

そして2年目から3年目

季節という切り口で高知県民が「どのように自然を見て、どのように自然を感じているか？」1年目の活動で高知県民の自然との関係性の傾向がぼんやりと見えてきました。

意外な気付きもあれば、さもありなんという傾向も見えました。回答が個々によって実に多様であるがゆえに、やはり「豊かさ」「幸せ」「望むべき未来」をお聞きして、暮らしの中で自然とどう向き合っているかを探ってみないと、高知県民の暮らしと自然の関係性は見えてこないのではないかと考えたのです。

そして約2年間高知県内の様々な地域や場所において、それぞれの地域に合う手法を手探りしつつ、各地域でのワークショップを開催しました。

高知県は東西に長く、県の南側は太平洋に面し、北部は四国山地を擁しており、地理的・文化的にも実に多様です。よって、ワークショップ等を開催する際は偏りが生じないように配慮しました。

海岸部としては大月町、中土佐町上ノ加江地区。平野部は高知市内、山間部は四万十町旧大正町中津川地区、香美市平山地区、奈半利町米ヶ岡地区、室戸市日南(ひなた)地区などの各地にて実施しました。

モノサシは人と自然のつながり

2年目が終わるころ、ある地域のワークショップの参加者から、「モノサシって結局人と自然のつながりのことなのでは？」という意見が出ました。「自然」との付き合いは、大都会ならともかく、地域で暮らす以上、良い面、悪い面、どちらも含めて欠くことはできません。

高知の自然と人のつながりをあらわすことが「モノサシ」として表現できるのであれば、自然のモノサシづくりは自分たちが暮らす「地域を知る」ことから始まるのではないかと考え始めたのです。

自然の豊かさ、持続性、利活用度

高知の自然は一見豊かに見えるけれど、少し昔と比べたらその豊かさを失っている、あるいは持続的でなくなりつつある、利活用度が極端に減っている、などの問題点が見えてきた。

- 休耕田や活用されていない園地や農地
- 獣害等々により、耕作が放棄されつつある農地
- 手入れがなされていない林地
- 水辺(川や海岸)への訪問者の減少

地域の知恵と伝統の伝承

特に山村や漁村、古い街では暮らしの中に自然を活かす知恵が残り、しっかりと活用されその伝統が継承されていることがうかがえる。

- 伝統的な食の伝承
- お祭りなどの地域行事の継承
- 人力で動かせる農具や道具
- 在来や固定種の作物の伝承

知恵と伝統の伝承の危機

しかし、地域の知恵は絶滅の危機に瀕しており、グループワークや聞き取りを行うと、高齢者にとっての伝統的な知恵の常識は若年層には非日常であり、またある地域では継承されていても他の地域ではもはや消滅していることも多い。

- 方言や言い伝え、説話など昔ばなし
- 昔の遊び
- 海や川などの危険な箇所(目に見えない渦や冷水域)
- かつて地域で得られた自然の恵み(特に山菜や川などから得られた食べられる生きもの)

人の暮らしと自然のつながりを考え、今と昔を比較したり、他の地域との違いを見比べてみると、我々の暮らしのあり方や新たな気付きがたくさん見えてきました。

- ・高知県の自然の豊かさは暮らしの豊かさに近い。
- ・その豊かさは経済と心の豊かさにつながる。
- ・自然資本が地域の「総合基礎体力」のはずであるが、あまり認識はされていない。

よって、高知の「豊かさ」は、「自然の豊かさ(自然資本というべきか)」があつてこそ成り立つものであり、もったいば自然の豊かさが失われると経済と心、両方の豊かさが失われるという事に気が付いたのです。

つまり、モノサシを探すという事は自然の恵みの受けとり方の指標につながるといえます。

そして「地域が持続的であるために必要な条件」になるのではないかと気が付きました。